

(仮称)江見統合小学校校舎耐震補強・大規模改修 工事計画

●配置計画

スクールバスの採用により、正門から昇降口の間には中型バス対応のロータリーを配置し、時計回りの一方通行とします。車道と歩道は安全に配慮した区分けとし、雨の日でもバスが待てるようなスペースを昇降口付近に検討します。

●主な改修内容

1. 耐震補強

文部科学省の推進する耐震基準 I_s 値=0.7をクリアする必要があります。
(現在の基準ですと一般の建物は I_s 値=0.6となります。)

2. 階段の改修

建築基準法による中学校の階段の蹴上げは18cm以下、踏み面は26cm以上、小学校の階段の蹴上げは16cm以下、踏み面は26cm以上です。したがって、この蹴上げの2cmの差を全面改修します。

3. トイレの全面改修

障害者対応の多目的トイレを含め、全面改修します。

4. 主な内装改修

できる限り全体的な改修を行い、内装に関しては木質を多用し、明るい校舎とします。

5. 部屋の入れ替え

平面図参照

6. 主な外装改修

7. 主な防水改修

8. 主な設備改修

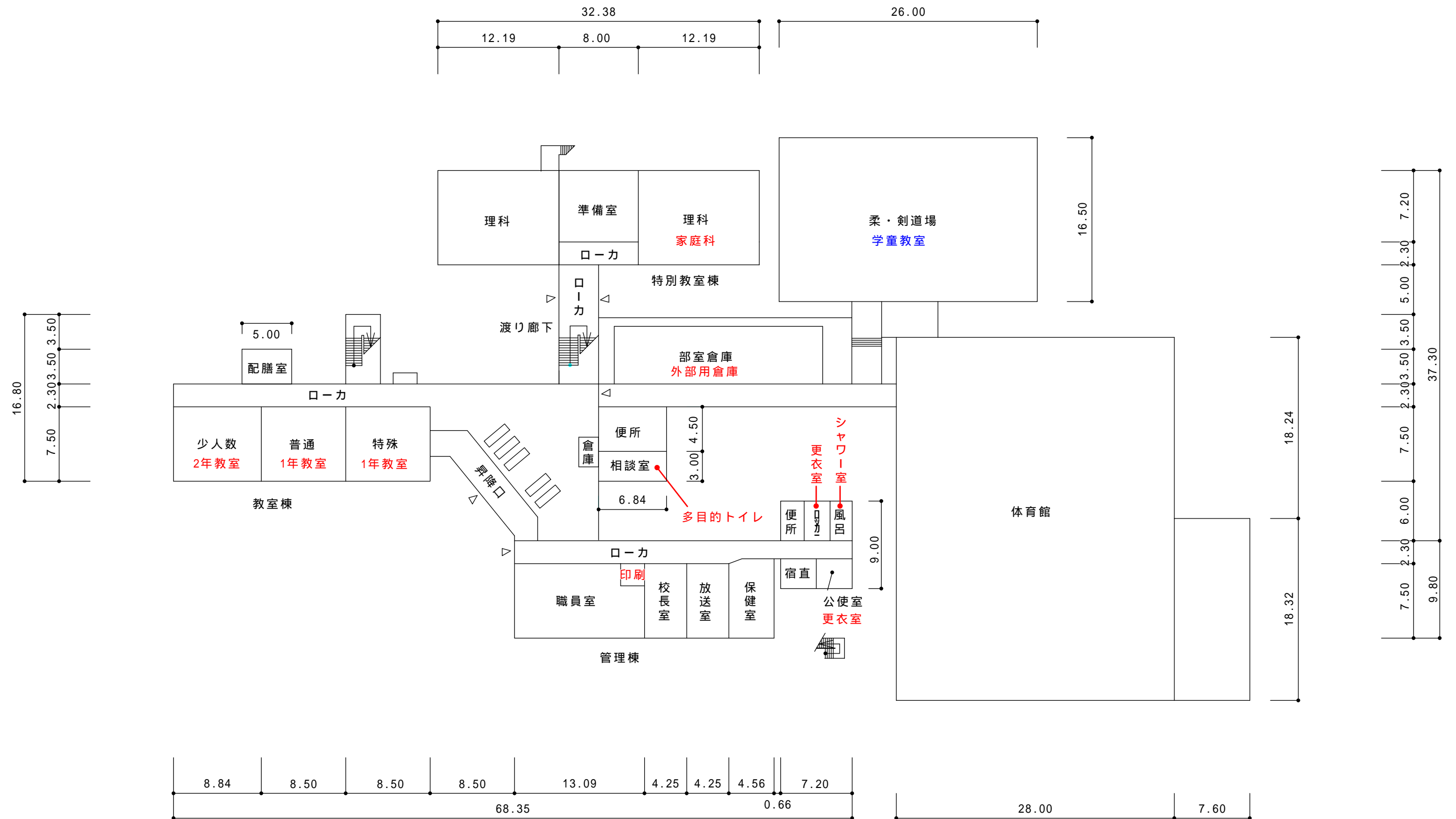
主な電気設備、給排水設備を改修します。

9. プールのレベル改修及び設備改修

プールの深さを中学生用から小学生用に変更します。

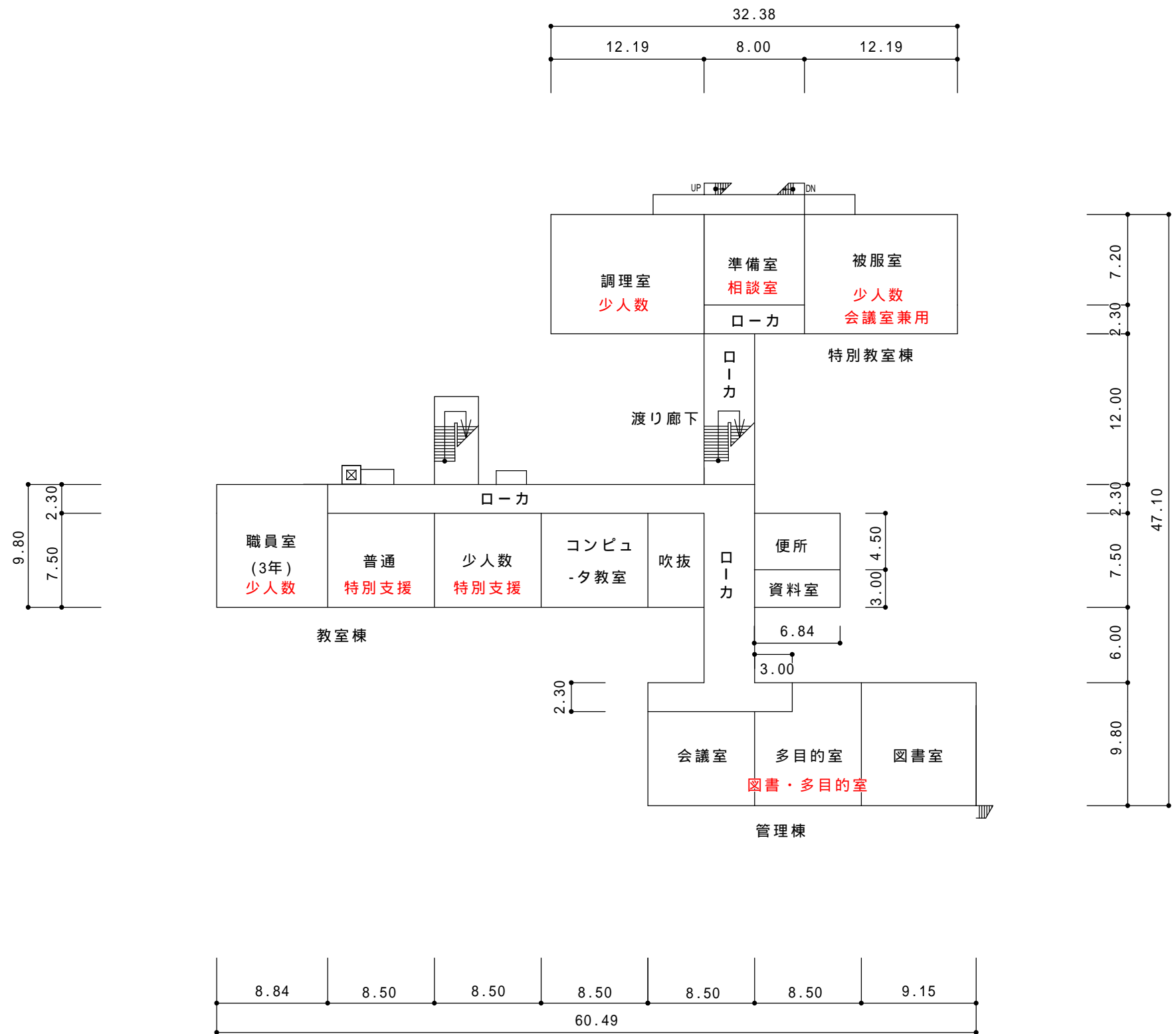
10. グランド改修

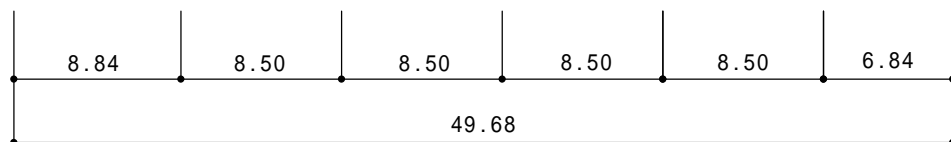
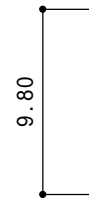
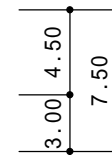
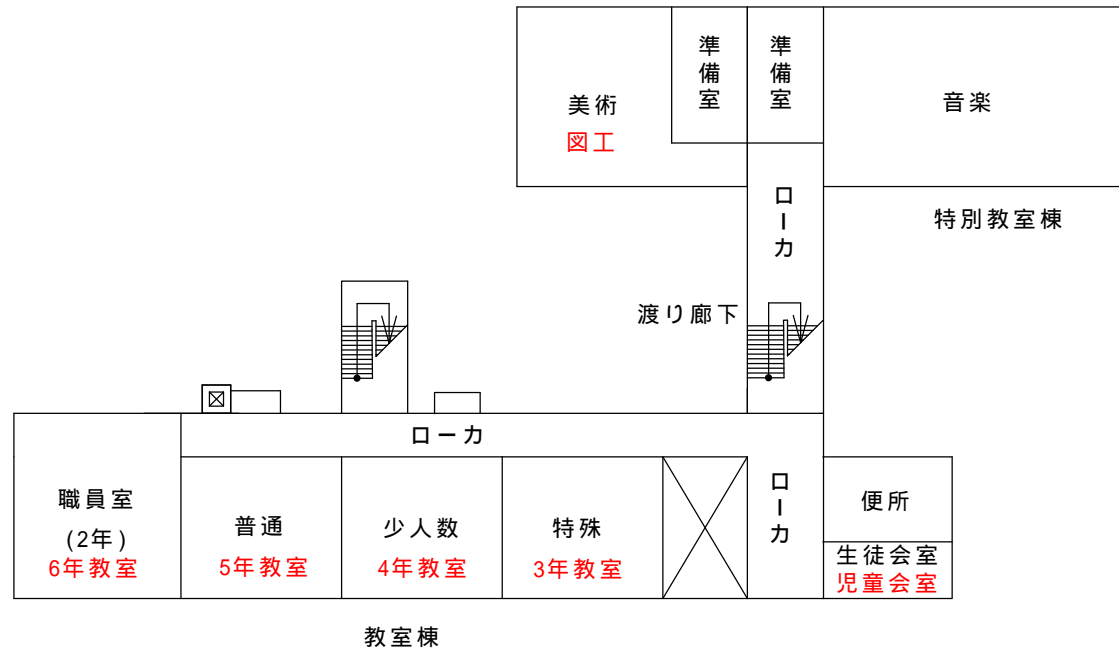
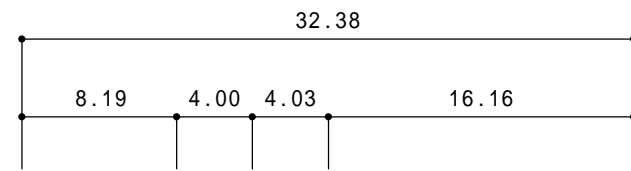
必要に応じ、150mトラックを含めた改修を行います。



1階

1 : 400





(仮称)江見地区幼保一元化施設新築工事計画 C案

●各室の配置計画

建物の配置は、隣接する小学校の職員室からグラウンドを見渡せるようにその区分けラインが決められ、小学生のボール遊び等の動きの違いからくる危険性を排除した、ある程度はつきりと分けた形態としています。まず、車の出入りのある駐車場や調理室の位置は、できるだけ小学校の昇降口から離れた安全な場所に確保する必要があり、尚かつ、幼保一元化施設のエントランス近くに、障害者用を含めた7台の駐車場を確保しました。次に各保育室、乳児室の配置は、南東をメインとする最高の方角を有し、隣棟間隔を開け通風、採光に配慮しながら、南東側に隣接する園庭との関係を強く意識させ、また同時に、アプローチもこちらから行っています。こうすることによって園庭の利用が非常にし易くなります。特に0、1才の乳児室・ほふく室、2才の保育室には専用のテラスを設けることにより、安全に特に配慮した外部空間を確保しています。園庭の大きさは基準を上回る大きさ(最低基準508.5㎡)をできるだけ確保しています。また、隣接する小学校との関係を考慮した交流広場や、緊急時の小学校グラウンドへの避難動線も2ヶ所確保しています。

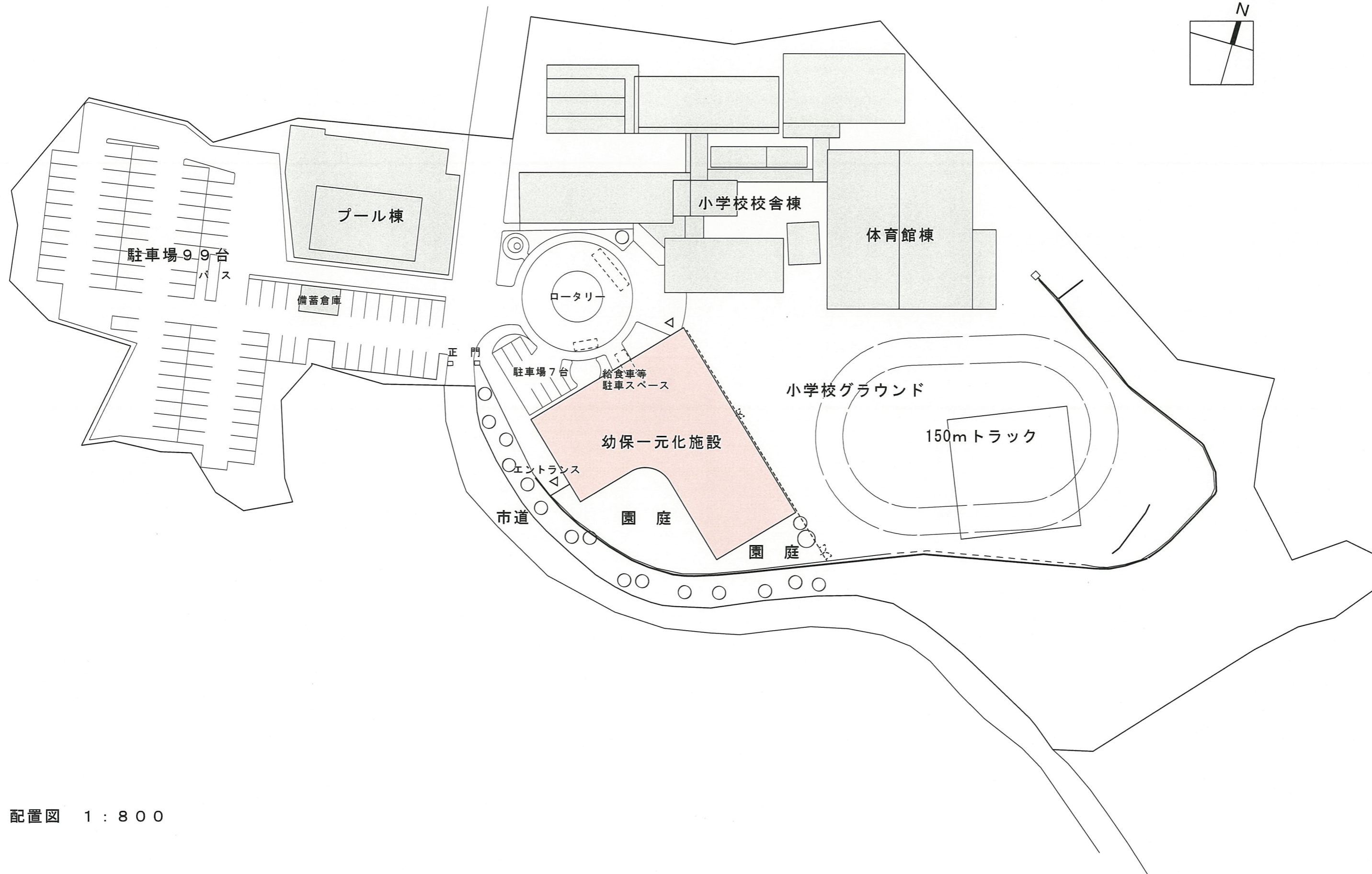
●各室の特色

施設全体はふたつのゾーンからなり、遊びの王国である遊戯室を中心に3才から5才までのゾーンをまとめた楽しく活動的な空間と、0才と1才と2才と事務室をまとめた安心と安らぎの空間からなります。3才から5才の保育室は、エントランス側より5才、4才、3才と配置し、送り迎え時の音の問題に配慮しながら、南東側に専用玄関を確保し、隣接する部屋との間に便所等を挟み込むように配置しています。このことにより、トイレまでの距離が非常に近くに確保できます。また、玄関の位置こそ違いますが、0才から2才についても同じようなことが言えます。この施設の特色のひとつである事務室のこの位置については、全ての管理の中心にあり、エントランスからの来客の動きはもちろん、子ども達の動きが園庭から部屋の中部にいたるまで把握できるように配慮しています。その他に可能な限り大きく確保された地域子育て支援室は、外部からも直接利用することができる形態としています。

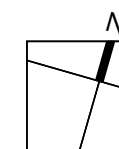
●構造と内装

構造は、木造又は鉄骨造の平屋建てとし、火災時等の避難には十分安全性が高いものと言えるでしょう。また、地震についても、通常の建築物の1.25倍の耐震強度を備え、安心して利用できる施設と言えます。最後に内装については、施設がら火災に対しての非常に厳しい制限がかかりますが、できるだけ温もりの感じられる木質を活かした、遊具のように明るく楽しい施設をめざして計画にあたります。

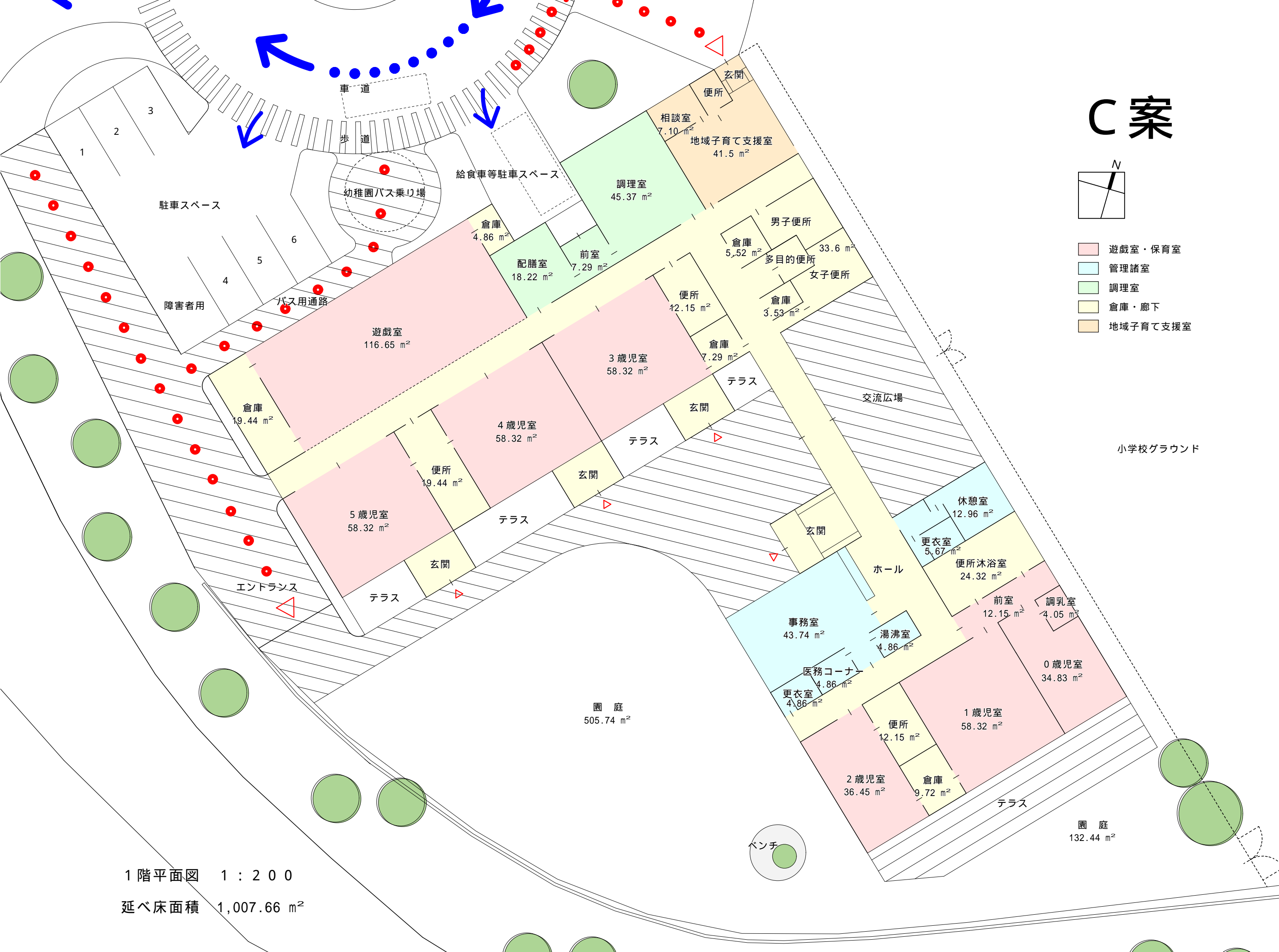
C案



C案



- 遊戯室・保育室
- 管理諸室
- 調理室
- 倉庫・廊下
- 地域子育て支援室



1階平面図 1 : 200
延べ床面積 1,007.66 m²

